

### 第37回蒲郡市地域公共交通会議 議事録

- 1 日時 令和4年12月21日(水) 午後1時30分～3時30分
- 2 場所 蒲郡市役所 本館 303会議室
- 3 出席者
- |    |                       |            |
|----|-----------------------|------------|
| 委員 | 愛知工科大学機械システム工学科教授     | 村上新        |
| 委員 | 名城大学理工学部社会基盤デザイン工学科教授 | 松本幸正       |
| 委員 | 愛知運輸支局                | 山内三奈       |
|    |                       | (代理 本田慎一郎) |
| 委員 | 愛知県都市整備局交通対策課         | 大林益英       |
|    |                       | (代理 八木郁也)  |
| 委員 | 総代連合会会長               | 細井政雄       |
| 委員 | 形原地区公共交通協議会           | 天野忠則       |
| 委員 | 東部地区公共交通協議会           | 小田繁男       |
| 委員 | 西部地区公共交通協議会           | 杉浦吉昭       |
| 委員 | 三谷地区公共交通協議会           | 廣中康人       |
| 委員 | 大塚地区公共交通協議会           | 小田眞一       |
| 委員 | 蒲郡市身体障害者福祉協会          | 金沢孝一       |
| 委員 | 蒲郡市老人クラブ連合会           | 白石よね子      |
| 委員 | 蒲郡市社会福祉協議会            | 鵜飼秀好(欠席)   |
| 委員 | 蒲郡市小中学校PTA連絡協議会       | 牧原延明       |
| 委員 | NPO法人ブックパートナー         | 新井麻利子      |
| 委員 | 蒲郡市ボランティア連絡協議会        | 藤田智江       |
| 委員 | 蒲郡市子ども会連絡協議会          | 鈴木照江       |
| 委員 | 蒲郡商工会議所               | 小澤素生       |
|    |                       | (代理 青木宣貴)  |
| 委員 | 蒲郡市観光協会               | 杉山和弘(欠席)   |
| 委員 | 名鉄バス株式会社              | 大野淳        |
|    |                       | (代理 加藤義郎)  |
| 委員 | 豊鉄タクシー株式会社            | 長縄則之       |
| 委員 | 株式会社かね自動車             | 天野成美       |
| 委員 | 名古屋鉄道株式会社             | 花村元気       |
|    |                       | (代理 伊藤泰地)  |
| 委員 | 公益社団法人愛知県バス協会         | 小林裕之       |
| 委員 | 愛知県タクシー協会             | 深谷克巳       |
| 委員 | 愛知県交通運輸産業労働組合協議会      | 壁谷政志       |
| 委員 | 愛知県蒲郡警察署              | 田中祥浩       |
| 委員 | 東三河建設事務所              | 高橋秀明       |
| 委員 | 蒲郡市長                  | 鈴木寿明       |

委員 蒲郡市市民生活部長 飯島伸幸  
事務局 蒲郡市交通防犯課長 鳥居昭裕  
蒲郡市交通防犯課係長 伴文明  
蒲郡市交通防犯課主事 石川雄策  
地域公共交通計画推進事業受託事業者 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 1名

#### 4 議題

(1) あいさつ

#### 5 協議事項

- (1) 地域公共交通確保維持改善事業補助金にかかる自己評価について・・・【資料1】
- (2) 三谷地区・大塚地区支線バス事業継続について・・・【資料2】
- (3) 西部地区支線バスのルート・ダイヤの変更について・・・【資料3】
- (4) 北部地区の交通空白地対策事業（実証実験）について・・・【資料4】

#### 6 報告事項

(1) 東三河地域公共交通利用促進イベントの実施結果について・・・【資料5】

#### 7 その他

#### 8 議事内容

(1) 開会

- ・ 出席委員が28名であり、定足数に達しているため、蒲郡市地域公共交通会議設置要綱第7条第2項の規定により会議が成立すること、本日の会議が公開となっていること及び地域公共交通計画推進事業受託事業者として三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社に参加していただいていることが事務局より報告された。

(2) 議題

- ・ あいさつ  
蒲郡市長より、市民憲章制定50周年を迎える、日々の生活において重要な「三つの誓い」は長きにわたり市民に親しまれているものであり、公共交通においても皆様と連携して「みんなの力でまちづくり」を実現していきたい。  
本日は協議事項が4点、報告事項が1点を予定している。それぞれのお立場から積極的なご意見をいただき、よりよいものにしていきたい。どうぞよろしく願いいたしますとのあいさつがあった。

(3) 協議事項

- ・ 議長より本日の議事録署名人として2名の委員が指名された。

ア 地域公共交通確保維持改善事業補助金にかかる自己評価について

- ・ 事務局より資料1に基づく説明が行われ、会長と座長の監修のもと修正等の手続きについて事務局に一任し、承認された。

[質疑]

(委員)

- ・ 鉄道について、10月の対R元年度比の減少幅が少なくなっている理由について、大きな動きがあれば教えてほしい。

中部様式の7ページで、利用者数は達成しているが収支率は未達成となっている。利用が増えれば収支率も改善するものと思うが、前年度の回数券販売の影響が考えられるとの説明だった。それほどに影響が出るものか、また形原は収支率達成しているがその影響はなかったのか。

(事務局)

- ・ 鉄道について、R元年度10月は消費税増税による定期券の先買いがあり、実績が低かったため、減少幅が小さくなっている。

中部様式の利用者数と収支率について、利用者数はコロナ禍の前年度利用者数に基づき目標設定しているため、それについては達成できたものの、収支率についてはその利用者数では目標不達成という結果になっている。回数券の影響については、特に三谷地区において、運行開始時の回数券割引販売分が全て、運行開始から3ヶ月間の前年度に計上されており、影響が大きいと思われる。形原は回数券の割引販売は実施しておらず、これまでの利用促進により多くの利用と広告収入により安定して収入が多いため達成できている。

(委員)

- ・ 鉄道の状況について、定期外利用も多くなっている点についてはどうか。

(事務局)

- ・ でんしゃ旅の事業を行っており、利用が多い。そうしたイベント利用の影響によるものとする。

#### イ 三谷地区・大塚地区支線バス事業継続について

- ・ 事務局より資料2に基づく説明が行われ、全会一致で承認された。

[質疑]

(委員・三谷地区)

- ・ 令和3年1月から運行を開始し、毎月利用実績も確認している。1便当たり利用者数は増え、3人になる月もある。高齢者等の移動手段として浸透している。ドミ一停留所は敷地内に移動させた効果が数字として表れている。三谷温泉の利用も多く、バス利用が増えてきている。

是非事業継続をお願いしたい。週4日運行になるが、地区協議会では、大塚との接続や将来的には毎日運行などの希望も出ている。なにより、より多くの人に乗車してもらえるようにしたい。是非運行日増、事業継続をお願いしたい。

(委員・大塚地区)

- ・ 大塚駅を中心にした路線で駅との利用がある。買物施設としてゲンキーがあり、その近くにはJAもある、その他に加藤医院などもよく利用されている。目的施設までの移動手段となり、生活路線として利用されている。

利用者数がまだまだ少ないので、利用促進を行い増やしていきたい。免許返納など

の点からも生活の足として大切な交通手段であり、事業継続をお願いしたい。

(委員)

- ・ 事業が継続されることは何よりだと思うが、今回、政策的に週3日から週4日に拡大することになる。客観的に収支率10%の目標は達成していない。一方で、先行して運行してきた形原地区は収支率をクリアして週4日を勝ち取った経緯がある。市長の施策の変更で週4日となる形であるため、収支率目標については形骸化することなく達成していけるように地域の協力をお願いしたい。

利用促進も大事だが、なにより周知をお願いしたい。存在は認知されていても、いざ実際に利用するときには情報がないということがある。繰り返し、粘り強く周知をお願いしたい。地区協議会だけでなく、福祉コーディネーターなどの高齢者に近い福祉関係者からの情報展開も重要だと思うので、そうしたアプローチも進めてほしい。

#### ウ 西部地区支線バスのルート・ダイヤの変更について

- ・ 事務局より資料3に基づく説明が行われ、全会一致で承認された。

[質疑]

(委員)

- ・ 路線の変更について、運賃の協議が必要になる。口頭でよいので、今まで同様、大人100円、子ども50円、障がい者の付添者は無料として変更がない旨、確認をしておきたい。

(事務局)

- ・ ご指摘ありがとうございます。運賃については変更せず、これまで同様とさせていただきます。

(委員)

- ・ ダイヤについて、これでよろしいか。停留所別乗降数を見ると行きと帰りで使い勝手が悪いところがあるのではないか。バローなどは行き帰りの数字のバランスが取れていないように見える。もしそうであれば、今回の見直しに伴い融通が利くのであれば調整できないか。

(事務局)

- ・ 図書館が起終点、バローはすぐ次の停留所ということもあり、左右回りで使いづらい場面があると思われるので改善できるとよいが、図書館での東部地区支線バスとの乗り継ぎを維持することを優先した。今回の変更に伴う影響については、地区協議会で利用状況のモニタリングや地域の意見を聞きながら検討していきたい。

(委員)

- ・ ダイヤについて、図書館での接続、運転手の休憩時間の確保など、優先すべき重要な部分があるということで、ダイヤの設定について理解した。

(委員)

- ・ 図書館からバローまでは歩いて3分ほどで行けるため、図書館で本を借りてからバローに移動してバスを利用する方もいる。

## エ 北部地区の交通区白地対策事業（実証実験）について

- ・ 事務局より資料4に基づく説明が行われ、実証実験の実施、内容、方向性について全会一致で承認された。

〔質 疑〕

（委 員）

- ・ 実証実験として1年間という期間は長い設定なので、途中での見直しなどの考えがあるか。

（事務局）

- ・ 令和5年3月から令和6年3月までの13カ月を予定している。頻繁に見直し、内容変更すると利用促進に繋がらないと考えるので、ある程度の期間を見ながら内容の変更についても検討したい。期間の区切りは設けず、利用者・地域の意見を聞きながら適宜検証・見直し等進めていきたい。

（委 員）

- ・ いまでも9時台は予約できないのではないかと。せっかく始めても、予約できないことが続くと使ってもらえなくなってしまう。高齢者にとっては予約含め新しいアクションを起こすこと自体労力である。確実に乗れる時間帯から導入していくのが良いのではないかと。タクシー事業者と調整して確実な時間帯から始めてはどうか。
- ・ 利用にあたりバスへの乗り継ぎを前提とした時間での利用ということで、利用時間・ダイヤについて分かりやすい表現にして、発信してほしい。

（事務局）

- ・ 最初の印象は大事なので、予約できない課題については、スタート時間を事業者とよく協議して詰めた。利用にあたってのダイヤ等の表現についても、事業者と相談して分かりやすい表現としていきたい。

（委 員）

- ・ バスの乗合でなくタクシーの乗用という説明をいただいた。乗合になると手続きが必要。運行効率を高めようとするとう乗合になるが、あくまで乗用という理解でよいか。

（事務局）

- ・ 今回の事業は乗合ではなく乗用として実施する。

## (4) 報告事項

### ア 東三河地域公共交通利用促進イベントの実施結果について

- ・ 事務局より資料7に基づいて報告が行われた。

〔質 疑〕

なし

## (5) その他

（委 員）

- ・ 資料1 中部様式の9ページに関して、西浦地区の協議は進んでいると聞いているが、

塩津地区はどうなっているか。鹿島団地・鶴ヶ浜団地は高齢者多く、正に交通弱者と言える。形原から延ばしてほしいという声も聞く。鹿島駅から徒歩でベイシアまで買い物に行く利用があると聞くが、塩津で運行が開始され、接続することで形原からもベイシアに行けるようになるとありがたい。地元と協議を進めぜひ実現してほしい。

(事務局)

- ・ 塩津地区は広く、意見がまとまっていない。具体的な進捗としては、本日協議いただいた柏原の検討から始めさせていただいた。地域から意見を伺うこともあるが、団地についてなど限定的な意見という状況で、今後どのように進めていくか検討段階である。地区によって公共交通手段が十分なところもあり、温度差がある。地域との協議が進展していけば、形原地区との連携、協力をお願いする場面も出てくると思うのでよろしくをお願いしたい。

(市長)

- ・ 本日はいろいろなご意見を賜りありがとうございました。皆さんに支えられながら公共交通が運行できている。行きたいところに行けるものであれば利便性が高く一番よいが、その他の仕組み等とのバランスなども考慮が必要。あきらめずに粘り強く協議を継続して進めていきたい。

周知についても丁寧にしていきたい。観光地として支線バスが利用されることもある。どうする家康が放送されるが蒲郡にも関連する史跡がある。支線バスに絡めながら史跡を案内できる周知が必要だと思っている。

いろいろな方法がある。市民の足として利便性の高い公共交通としていきたい。

(事務局)

- ・ 次回の地域公共交通会議は3月23日(木) 14:30~の開催予定との連絡を行い会議は終了した。

以上、議事の正確を証するため署名押印する。

蒲郡市地域公共交通会議委員

印

蒲郡市地域公共交通会議委員

印